

現在、その活動の中でも特に推し進めているのが、薬剤師会との連携です。地域指導責任者等の先生方とナビが協力して講演を行い、ナビ制度の紹介と候補者確保を行っています。これまで薬剤師会への説明会を2018年9月に人吉、12月に水俣、2019年3月に熊本市、11月に阿蘇で開催しています(図7、8)。



図7



図8

最後に、**熊本県における今後の検討事項**ですが、「熊本県ナビ会議」と「がん専門相談員WG」、「ナビ」との連動・協働に加え、さらに、「がん相談員サポートセンター」(がん専門相談員を支援するため県の予算にて設置)との協力を進めていく予定です。そして、下記の4つのモデル(「全国で参加可能なモデル(熊本モデル)」、「都道府県・市区町村向けモデル」、「医療者・介護者向けモデル」、「人材育成のモデル」)の推進を検討しています。まず「全国で参加可能なモデル(熊本モデル)」として、各医療圏でのニーズ調査や冊子の作成・活用、薬剤師会・介護事業所・市町村などへの広報、九州ブロック相談支援フォーラムでの情報提供など想定しています。ブロック単位での推進を考えています。次に「都道府県・市区町村向けモデル」「医療者・介護者向けモデル」として、各医療圏の問題点・ニーズを調査・検討し、地域中核病院、調剤薬局、ナビの顔の見える関係づくりを進めることで、地域単位のネットワーク構築として行政と地域の健康啓発活動へ関わることを目指します。「人材育成モデル」では、学会による人材育成のプログラム(コンテンツ作成)を基本に、各圏域のニーズにあった人材の育成として、相談支援・ナビ・ピア・がんサロン関連研修会やがん専門相談員WG・部会への陪席参加などさらに推進することを検討しています。

冒頭、私がナビになった理由でも記しましたが、すべては、住民がどこにいても正確ながん情報を得られ、どこにいても標準的治療にアクセスできるようなネットワークづくりと、それに必要ながん専門相談員やナビの仲間づくりの為にこのような活動をさせていただいております。今後も皆様のご協力をいただきながら、尽力して参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

スケジュール
 ★2020コミュニケーションスキルセミナーin福岡
 日時：6月27日(土) 12:00~16:00
 会場：九州がんセンター 2階 講堂
 ★2020コミュニケーションスキルセミナーin京都
 日時：10月24日(土) 8:00~11:30
 会場：国立京都国際会館

| | | | | | | | | | | 2020.2.3現在 | | | | |
|------|---------|------|---------------|------|------|---------|------|---------------|------|------------|------|---------------|------|-----|
| | シニアnavi | navi | e-LEARNING受講者 | 受講者数 | | シニアnavi | navi | e-LEARNING受講者 | 受講者数 | シニアnavi | navi | e-LEARNING受講者 | 受講者数 | |
| 北海道 | 10 | 27 | 7 | 35 | 石川県 | 1 | 3 | 3 | 4 | 岡山県 | 1 | 9 | 2 | 11 |
| 青森県 | | 2 | 1 | 3 | 福井県 | 1 | | 1 | 1 | 広島県 | 3 | 9 | 6 | 17 |
| 岩手県 | | | 1 | 1 | 山梨県 | | | | 0 | 山口県 | | 1 | 3 | 4 |
| 宮城県 | | 1 | 1 | 2 | 長野県 | | | 3 | 3 | 徳島県 | | 1 | | 1 |
| 秋田県 | | 1 | 1 | 2 | 岐阜県 | 1 | 4 | 2 | 6 | 香川県 | | 2 | | 2 |
| 山形県 | 1 | 2 | 3 | 5 | 静岡県 | | 4 | 3 | 7 | 愛媛県 | | 6 | 2 | 8 |
| 福島県 | 1 | 3 | 5 | 8 | 愛知県 | 2 | 5 | 12 | 19 | 高知県 | 1 | 1 | 2 | 4 |
| 茨城県 | | 2 | 1 | 3 | 三重県 | 1 | 3 | 2 | 6 | 福岡県 | 10 | 149 | 96 | 251 |
| 栃木県 | | 2 | 0 | 2 | 滋賀県 | 2 | 1 | 6 | 8 | 福岡県 | 1 | 5 | 7 | 13 |
| 群馬県 | 9 | 13 | 14 | 35 | 京都府 | 2 | 2 | 1 | 4 | 長崎県 | | 6 | 7 | 14 |
| 埼玉県 | 3 | 7 | 20 | 30 | 大阪府 | 3 | 8 | 22 | 31 | 熊本県 | 15 | 30 | 41 | 82 |
| 千葉県 | | 5 | 15 | 20 | 兵庫県 | 2 | 4 | 3 | 9 | 大分県 | 2 | 25 | 11 | 37 |
| 東京都 | 5 | 19 | 46 | 67 | 奈良県 | | 1 | 1 | 2 | 宮崎県 | | 1 | | 1 |
| 神奈川県 | 3 | 6 | 14 | 24 | 和歌山県 | | | | 0 | 鹿児島県 | | 3 | 7 | 10 |
| 新潟県 | 1 | 2 | 8 | 11 | 鳥取県 | | | | 0 | 沖縄県 | | 1 | 7 | 8 |
| 富山県 | | | | 0 | 島根県 | | | | 0 | 合計 | 79 | 375 | 386 | 811 |

編集：広報ワーキンググループ委員長：矢野篤次郎(別府医療センター病院長)
 連絡先：一般社団法人日本癌治療学会 navi@jsco.or.jp



一般社団法人日本癌治療学会 がんnavi通信

Vol.5
2020春

リハビリテーションと医療ネットワークナビゲーター がん医療ネットワークシニアナビゲーター 朝日野総合病院 理学療法士 吉本 大佑

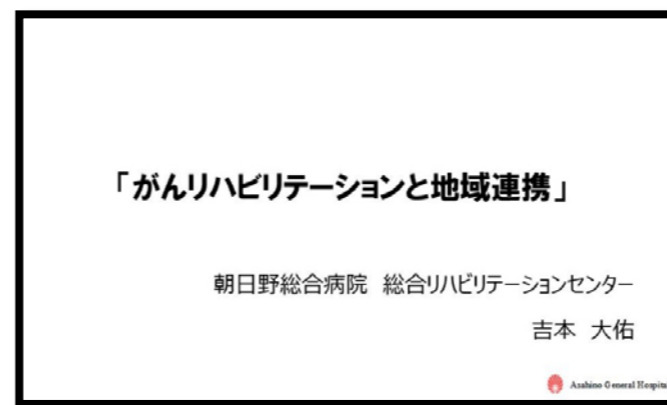
私はケアミックス型の総合病院に勤務する理学療法士です。がんのリハビリテーションに9年間従事しており、他施設や地域との交流の中でがん医療ネットワークナビゲーターを知り受講させていただきました。

私が現在感じている問題として、がん治療やケアに従事している方ががんのリハビリテーションの認知度が低く十分に利用されていない事があります。一方リハビリテーションに従事するスタッフはがん治療やがんを取り巻く環境、取り組み、活動について理解していない事があげられます。この問題に関し双方の懸け橋になるべく微力ながら活動を行っています。



<地域に向けたがんのリハビリテーションに関する取り組み発表>

地域の病院・施設等が集まり研修や発表を行う地域のネットワークがあり、「がんのリハビリテーションと地域連携」というタイトルで話をする機会がありました。その際がんのリハビリテーションの経験とナビの知識を総動員しながら相互理解とがん医療のネットワーク、顔の見える関係の大切さについて伝えることが出来ました。



<医療ネットワークナビゲーターとしての院内での取り組み>

私が勤務する病院は、がん診療拠点病院ではありませんが、多くのがん患者様やそのご家族がいらっしゃいます。拠点病院の相談支援センターに行く方もいらっしゃいますが、多くの方は何も知らずに過ごしている方が多いのが現状です。活動としては、まだ微力ですが地域での相談の窓口としての動きや、病院での相談窓口、相談支援センターにつなぐ役割・リハビリテーションスタッフへのがん医療教育などがあります。また、私は理学療法士ですので、運動の相談や指導等にも対応することが出来ますので、少しプラスした視点でお話することが出来ています。

<今後の活動>

がん医療ネットワークナビゲーターは、まだまだ認知度が低く活動内容もまだまだ定まっていません。全国のナビに皆様とナビの認知度向上と、ナビの活躍を模索していきたいと考えています。

『熊本県における「認定がん医療ネットワークナビゲーター」の活動報告と今後の展開」
シニアナビゲーター JCHO人吉医療センターがん専門相談員 南 秀明

私は、熊本県にあるJCHO人吉医療センターのがん相談支援センターに所属するがん専門相談員であり、同時に、本学会認定がん医療ネットワークシニアナビゲーター(以下、シニアナビ)でもあります。このような立場から、私はがん相談支援センター(がん専門相談員)や日本癌治療学会、認定がん医療ネットワークナビゲーター(以下、ナビ)、シニアナビ等をつなぐ役割をさせていただいております。ここでは、熊本県における私個人の活動と県全体の活動、そして今後の展開についてご報告いたします。

まず私個人の「シニアナビ」としての活動ですが、相談支援・情報提供活動は日常の診療におけるがん専門相談員の活動と重なる部分として行います。相談者への信頼できる情報提供、治療方法などの選択支援、医療者や家族間の関係性改善、情緒的サポート、他機関との連携などで、その人らしい生活や治療が出来るように支援します。セカンドオピニオンや就労支援、がんサロン等患者活動への支援も行います。これらを地域のナビと連携して行うこともあります。また、ナビの実地見学時の担当者として育成にも関わります。シニアナビとしての広報・周知活動は、勉強会等あらゆる機会を捉えては院内・外に対してナビの説明と募集をしています。ナビに関する制度確立のお手伝いも本学会各委員会や熊本県がん診療連携協議会相談支援・情報連携部会(以下、相談支援部会)での活動を通して行います。中でも相談支援部会の下部組織であるがん専門相談員ワーキンググループ(以下、がん専門相談員WG)との「つなぎ」は重要な役割と認識しています。さらに、ナビ同士や学会、各委員会とのつなぎ役もできればと思っています。昨年10月の本学会学術集会では、全国から集まったナビにて懇親会を開催することができました。

では何故、がん専門相談員である私がシニアナビの認定も受けたのかということですが、それはがん専門相談員の役割である「がん診療・がん情報の均てん化に向けた相談支援活動」を行い、充実した地域体制を構築する為の仲間づくりをしたいと考えたからです。そして、がん専門相談員とナビをつなぐならば、両方のフィールドに飛び込むべきとも考えたからです。がん専門相談員は心理・社会的支援では高度な技術を要します(情報提供も、隠された主訴に注意し、慎重に行います)。しかし、がん診療の均てん化には人数が少なく、認知度が低いという状況もありました。一方、ナビは地域で普及・啓発を行い、相談者をがん相談支援センターにつなぎ、地域でがん専門相談員を支援するというものですが、がん専門相談員側の認知度は低い状況でした。そこで、両者を有効につなぐ役割が必要であり、そのことが相談支援のネットワーク拡大と相談支援の質を維持・向上させることに繋がると考えました。

熊本県のナビの現状は、シニアナビが15名、ナビが26名と多数になっており、職種では薬剤師、看護師が多く、医師・歯科医師やがん専門相談員、メディカルクラークなど多岐に渡っています。その活動状況ですが、大きく分けると「各自の相談支援活動」、「各自の広報・募集活動(勉強会等での講演)」、「相談支援部会との連携」、その関連で発足した「熊本県がんナビ会議での活動」、さらに「がん専門相談員WG活動への参加」、「薬剤師会との連携・協働」、「県内のがんナビ同士の交流」ということになります。具体的な活動については、ナビを対象にアンケートをとりました。まず個々人の活動をご紹介しますと、図書館司書でナビのUさんは、「がん相談in図書館」において我々ががん専門相談員と協力して図書館での相談支援活動に参加されています。最近では、「がんナビに本を紹介してほしい」と来館された方もいたそうです。

周知活動としても図書館のtwitter等で事前相談につき案内したり、闘病記文庫などのコーナーも作られたりしています。看護師ががんサロンの世話人として相談支援をされている方もいます。がんに関する勉強会を企画されたりしています。調剤薬局の薬剤師の方も多くいらっしゃり、様々な活動をされています。薬剤師のKさんは、薬剤師会広報誌に「がんナビ」についての記事を投稿されたり、多くの病院や薬剤師会で講演されたりしています。各病院でも「わたしの日記」(県で作成している患者・家族・医療者・介護関係者間での情報共有ツール)の導入支援もされたとのこと。薬剤師で僧侶のYさんは、病院での「ビハーラ活動」として講演や傾聴活動も行っています。来局者へ「民間療法」についての相談対応や「がんサロン」の案内などもされているようです。ある調剤薬局の薬剤師Mさんは、がんサロンの世話人としてがん専門相談員へピアサポーターの紹介をされたり、がんサロンでの相談をきっかけに積極的治療やホスピスについての情報提供をしたり、問題が多岐に渡る場合はがん専門相談員に繋ぐという活動を実際にされています。放射線治療中で「職場復帰に不安」を抱える患者さんに対しては、がん相談支援センターとハローワーク(就労相談窓口)との「つなぎ」をされたり、熊本県の連携パス「私のカルテ」活用やがん拠点病院の医師やがん専門相談員、かかりつけ医、生活保護係などと連携を図られたりしたようです。

さらに、個人病院での情報不足を補う働きや海外在住の日本人に対してメールでの対応やホームページ上のがん情報、「熊本県がん情報冊子」(がん専門相談員WG作成・PDF版)の紹介など情報提供活動もされており、精力的にナビとして活躍されています。この方々は、我々が企画する県のがん専門相談員研修会などに参加され、自己研鑽もされています。これにつきましては、職場への認知と参加しやすい状況をつくる為に相談支援部会長より派遣依頼状を出していただくようにしました。

次に熊本県全体でのナビ活動ですが、熊本県のがんピアサポーターセミナーに患者・家族、がん専門相談員と一緒にグループワークに参加したり(図1)、熊本県がん専門相談員研修会に受講生として参加したり(図2)、各地の「健康フェスタ」に

がん専門相談員と一緒に「がん相談ブース」にて啓発活動など行ったり(図3、4)、各人が病院での各勉強会で「がんナビ」について発表を行ったりしています(図5)。これらの情報共有もメールで行っています。



図1



図2



図3



図4



図5

熊本県における制度確立への動きとしては、まず2018年9月に「熊本県がんナビ会議」が発足しています(図6)。これは医師、がん専門相談員WG、シニアナビ、薬剤師会などをメンバーとし、全体におけるナビの広報、育成、支援、管理などを目的に定期的開催するもので、当然に相談支援部会とも連動していくものです。熊本県や熊本市、がん拠点病院の医師、在宅医、歯科医師会、その他メディカルスタッフなどに対して、がんナビ制度の概要を理解いただく為の広報・周知、その情報発信・共有の方法(メーリングリストのあり方など)やがんナビの継続教育、がん相談支援センターとの連動などについて検討します。



図6



図6